

## 米を食う

独居老人の私はこの2-3年米を炊いたことがないばかりか、お米を買ったことさえもない。ご飯とは、スーパーで売っている「さとうのごはん」のようなパックに入ったご飯だと理解し、自分で炊いたご飯は全然食べたくない。一人も人には、毎日、電気釜でご飯を炊く不便さや、食べきれないご飯の処理に頭を使うことなど面倒だからパックご飯で十分である。

パックご飯のシールを少し剥がし、電子レンジで2-3分チンすれば温かいご飯が出来上がり、それに卵と醤油、またはお茶漬けのもとをかけ、勢い良くかき混ぜて、みそ汁（これもインスタント）、お新香やキムチをおかずに朝飯を済ませるのが一人もんの朝食である。

空になったパックにご飯粒が残っていると、丁寧にそのご飯粒を茶碗に移すのだが、この時は小学校の怒りんぼのY先生が教えてくれた歌を必ず歌う。

箕の着て傘もて鉄持って  
お百姓さんご苦労さん  
今年も豊年満作で  
お米がたくさん獲れるよう  
朝から晩までおはらたさ

多分小学校の2年生のころこの歌を習い、それ以降毎回、昼飯前にこの歌を歌って、ご飯粒を一つも残さないようにと言われて昼飯を食べた。

学校で歌を覚えるとき、はじめはY先生が黒板に歌詞を書き、それを見ながら曲を覚えるのだが、2-3回で歌えるようになる。

クラスの中の一番ちびで、おとなしい「りゅうちゃん」という子がいた。この子は何しろおとなしく、皆からいじめられてもニコニコ笑って耐えているような子で、先生に口答えなど決してしない子だった。

そのりゅうちゃんが、黒板に書かれた歌の歌詞を見ながら、突然「Y先生、この歌おかしい。変です。」と言い出した。普段はおとなしい彼が、おこりんぼのY先生に向かって反抗的な口をきいたので、Y先生は真っ赤になって怒り出した。そうでなくても普段から怖いY先生に弱虫のりゅうちゃんが反抗したのだから、クラスの生徒全員がどうなることかと固唾を呑んで見守っていた。

先生が「何がおかしく、何が変だ。言ってみろ。」と、ちびりちびりゆるゆるをにらめつけながら迫った。

普段はおろおろしているりゆるちやんが、この時ばかりはすくっと立ち上がって、「先生、歌の最後の（おはらたき）って何ですか。おかしくないですか。」と言った。

先生も我々も、彼の言っていることが理解できずに、みんな沈黙していたら、先生が突然黒板の前に行き、りゆるちやんに向かって頭を下げ、「りゆるじが正しい。（おはらたき）ではなく、（お働き）が正しい。先生が間違っていた。悪かった。」と謝って、その部分を訂正した。

りゆるちやんは学校の近くの教員宿舎に住む、よその学校の先生の子弟で、噂ではその教員の転勤に伴い東京に転校して一流大学に入ったと聞いた。

今日も朝飯時に、ご飯のパックについている米粒を拾いながら「朝から晩までおはらたき」と口ずさんで、気弱に笑うりゆるちやんを思い出している。

完

2024年3月18日

奥山利雄